

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	障害児保育
科目基礎情報				
開設学科	こども学科	コース名		開設期 後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	2単位	授業形態	演習	
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。			
担当教員情報				
担当教員	北原零未	実務経験の有無・職種	無	
学習目的				
<p>前期に学んだ「社会福祉論」「こども家庭福祉」を踏まえ、障害児とその家庭がどのようなニーズを持ち、どう支援していけば良いのかを学ぶ。そのためにまず障害児保育を支える基本理念を理解し、障害のある子どもたちのニーズを知る。「障害」は誰にとっても無縁ではない。たとえ現時点で障害がなかったとしても、あるいは身近に障害児/者との交流がないとしても、けっして他人事ではないのだと認識し、保育士として自らに何ができるのか、自分のことにひきつけて考えられるようになることが目的である。</p>				
到達目標				
<p>テーマが障害であるだけにけっして明るく楽しい内容ではない。しかしながら保育士を目指す上で、障害児とその家族が置かれている現状を知り、課題を知ることは不可欠である。多くの学生にとってはまだ障害はあまり身近ではないかも知れないが、保育の現場では珍しいものではない。保育士としてできる限りの支援・援助が可能となるよう、まずは障害についての理解を深め、障害児とその家族の社会的な困難を知り、さまざまな障害児/者への援助力を身につけることを目指す。</p>				
教育方法等				
授業概要	<p>「障害」とは何か、医学モデルと社会モデルの概念を知った上で、具体的に子どもの障害にはどのようなものがあるのか学ぶ。幼児の障害の難しさは、それが実際に何らかの障害なのか、単なる発達上の個人差なのか見極めが付きにくいものも多い点にある。そうした点にも留意しつつ、障害児や育てにくい子どもとその家族への対応方法・援助方法についての理解を深める。</p>			
注意点	<p>私語等他者に迷惑を掛ける行為は論外（退席を命ずる）。また、他者に迷惑を掛けておらずとも、内職・居眠りなどは欠席と見なす。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。学校が特殊事情として認めた場合を除き、遅刻や欠席は認めない。10分以上の不在（遅刻・早退・中抜けを問わず）は、欠席と見なす。授業時数の4分の3以上出席しない者には単位を認めない。</p>			
評価方法	種別	割合	備考	
	確認テスト	50%	最終的な理解度・習熟度を確認するために実施する	
	小テスト	25%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	課題・宿題	25%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表 (口頭・実技)	0%		
平常点	0%	遅刻・欠席・妨害などは減点するが、出席しているからと言って加点はしない。		
授業計画（1回～15回）				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	障害とは何か	「障害」という概念: 医学モデルか社会モデル化		
2回	障害児保育の歴史の変遷	障害児への支援がいつからどのように始まるのかを知る		
3回	理解と援助	障害についての理解を深め、保育における発達の援助について学ぶ		
4回	身体障害	身体障害の種類を知り、支援方法を身につける		
5回	知的障害	知的障害とはどのようなものかを知り、支援方法を身につける		
6回	発達障害	発達障害とは何かを学び、支援方法を身につける		
7回	家庭への支援	障害児とその家庭の現状・ニーズを学び、どのような支援が必要かを検討する		
8回	障害児保育の実際(1)	実際、保育の現場ではどのような支援が行われているかを学ぶ		
9回	障害児保育の実際(2)	(1)を踏まえ、自分が保育士となった際、何ができるか、どうすべきかを考える		
10回	連携	家庭および関係諸機関との連携を理解し、障害児への支援方法を学ぶ		
11回	現状と課題	障害児保育の現状と課題を分析し、今後の展望とニーズを知る		
12回	改めて、「障害」とは何か	障害とは何か、何が障害を「障害」たらしめるのか改めて問うことで、障害を自らにも関係のあることとして自覚する		
13回	共生社会の実現	ノーマライゼーションの理念を踏まえ、障害児保育の在り方を考える		
14回	世界の障害児保育	世界の障害児保育の実情を学ぶ		
15回	総括	全14回を振り返ることで障害児保育への理解をより深め、保育現場で実践できるようにする		